

～戦後70年、忘れられない記憶に、心をかたむける～

傾聴講座

戦争体験を聴く

8月15日は、終戦記念日。70年の長い歳月が過ぎても、戦争が忘れられないと教えて下さる人がいます。大切な家族を戦争で失った人、近所に爆弾が落ち隣人の死を目の当たりにした人、空襲から逃げまどった人、ふるさと鹿児島、若い特攻隊員の悲しみを教えてください、認知症が重く、さっきあったことも忘れるのに、70年前の戦争の大変さを語りつづける人、話せない気持ち、沈黙のままの人……

傾聴は相手の思いを受容することで、すこしでも、孤独感を癒し、安心感をもたらすための取り組みです。聴く人にも、相手の体験や人生から、気づきを与えられ、歴史を学んだり、生き方をふりかえられます。戦争体験と戦後70年の人生の歩みを聴きながら、傾聴ボランティアに必要なことを学びます。

日時 2015年 7月26日(日) 午後1時半～4時

会場 特別養護老人ホーム西長洲荘 (〒660-0805 尼崎市西長洲町3-3-20)

内容 ①戦争を体験した方(西長洲荘デイサービス利用者)の話
②傾聴ボランティアに必要な知識・方法、3V・3Tの話

★案内 8月22日(土)「西長洲荘・納涼祭」付添いボランティア募集(当日12時半～5時)

参加費 無料、先着定員30名、要申込み

連絡先 電話 06-6483-5514 FAX 06-6489-2941

主催 社会福祉法人平成会・西長洲荘



- お話 表 ミ子 (98歳。終戦時は28歳。広島県福山市で福山大空襲を体験) 空襲で町は焼け野原に。おばあさんと必死に逃げた。親とはぐれ、親からは死んだものと諦められた。
- 政 サツ子 (92歳。終戦時は22歳。奄美大島で空襲を体験) お兄さんが戦死。空襲が怖くて、防空壕に何度も逃げた。「平和が一番」とデイにきては毎回熱く語る。
- 吉見ツヤ子 (91歳。終戦時は21歳。鹿児島で被災。戦後、知覧特攻平和資料館を何度も訪問) 爆弾で二軒隣の家の女性が両足を吹き飛ばされ亡くなった。血が飛び散っていた。裏山に逃げた。
- 河本 登 (78歳。終戦時は8歳。大阪で機銃掃射・空襲を体験。生活難の中、在日朝鮮の人を助け、いじめを受ける) 空襲で病院が焼け、足を治療できず、大阪から鳥取に疎開。足の障害が重く、学校もいけず海辺で過ごす。

コメンテーター/戦争体験を傾聴して感じたこと

山本 孝子 (大阪人間科学大学・医療心理学科・臨床発達心理専攻・准教授、臨床心理士、社会福祉士)

出口 真由 (大阪人間科学大学・医療心理学科・臨床発達心理専攻・3回生。講座参加者)

傾聴講座講師

栗野 真造 (西長洲荘・主任介護支援専門員、前北海道教育大学講師、社会福祉士)

大正11年生まれのお父は満州出兵、シベリア抑留3年。昭和3年生まれのお母は大阪大空襲で被災。